

令和 5 年度 下 半 期 指 定 管 理 者 管 理 運 営 状 況 シ ー ト

●施設の概要

施設名	サンフレンドうずら・児童センター	所管課	子ども未来部子ども支援課
所在地	岐阜市中鷗7丁目58番地		
指定管理者名	社会福祉法人 岐阜市社会福祉事業団		
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日まで		
選定方法	☐ 公募 ☒ 非公募		
料金制	☐ 使用料 ☐ 利用料金 ☒ 料金徴収なし		
指定管理委託料(年額)	18,300,000円		
施設の設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにすることを目的とする。		
施設概要	◇構造:鉄筋コンクリート造2階建 ◇敷地面積:2,037.00㎡ ◇延床面積:676.81㎡ ◇施設内容:遊戯室、幼児室、図書室、集会室、おもちゃ図書館、事務室、駐車場 ※障がい者センターとの合築で事務室ほか共有部分あり		

●利用状況

		R5下半期	R5上半期	R4下半期	R4上半期	R3下半期
利用者数 (単位:人)	来館者数	15,651	16,457	15,732	13,962	13,111
	移動児童館利用者数	348	408	288	136	123
各室稼働状況	移動児童館実施回数(単位:回)	※15(14)	※15(11)	※15(15)	※9(9)	※9(9)
	開館日数(単位:日)	151	155	151	155	151

※実施回数(施設未設置地区実施回数)

●業務の履行確認

区分	確認事項	履行状況
利用者サービス	①開館日・開館時間の遵守 ②適切な人員配置 ③広報の方策 ④苦情への対応 ⑤仕様書、事業計画書に基づく事業の実施	①計画通り実施しました。 ②所長及び常勤職員3人の合計4人(児童厚生員4人、保育士資格3人、教員資格4人) ③「おたより」発行、配布(小学校、公民館、南保健センター、ツナグテ) 法人ホームページに掲載、活動内容を館内に提示しました。また、岐阜市が運用する「子育て応援アプリ」を活用し、行事等のお知らせを掲載しています。ホームページはスマートフォンにも対応し、お知らせなど児童館情報はブログや動画も用いてタイムリーで効果的な広報活動に努めました。またホームページは岐阜市社会福祉事業団の統一した形式とし、当法人が管理している他の8施設のホームページにリンクを貼り、他館の情報も入手しやすくしました。 気象警報発令時などの情報は、迅速にホームページにUPするとともに、行事参加予定者に対しては電話連絡を行いました。 ④ご意見箱を設置し利用者からのご意見・ご要望をいただける体制としました。年に3回実施を予定している児童用、保護者用にアンケートの2回目を12月、3回目を3月に実施しました。苦情・意見、児童館運営委員会での意見、アンケート結果は、逐次児童館内に掲示しているとともに、改善できるものは迅速に対応しました。 ⑤仕様書、事業計画書に基づき事業を実施しました。
自主事業 提案事業		
施設管理	①施設設備の保守点検の実施 ②施設の衛生管理に対する配慮、快適に利用できる状態の保持 ③省エネルギー並びに環境への負荷の軽減に努めること ④施設・設備・備品等の維持管理	①管理者点検マニュアルにもとづき保守点検を適切に実施しました。 ②施設の清掃は、職員による日常清掃と週に2回就労継続支援B型事業所清掃班による清掃をしました。また、園庭除草作業を9月・11月に実施しました。快適で安全に施設を利用していただくため、エアコンの温度管理と換気、トイレの清浄には特に気を付けました。幼児室、おもちゃ図書館では、赤ちゃんが舐めてしまった玩具を置けるスペースを随時設置し、その都度消毒を実施しています。また毎週火曜日には、手拭きでの玩具清掃を実施しています。 ③使用していない部屋の消灯の徹底、適正室温の設定等節水節電を実施。古紙、ダンボール、ペットボトル、空き容器などを材料として活用しリユースに努めました。 ④専門業者による遊具点検を1回実施しました。また、月1回の職員による施設の安全点検、月2回のAED器具の機能確認、毎日の消毒、清掃により、玩具、設備、備品の維持管理に努めました。

施設修繕	下記の観点からの修繕実施状況 ①迅速・適切な修繕の実施 ②指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備	①緊急性のあるものは、岐阜市社会福祉事業団事務局及び岐阜市に即時報告して判断を仰ぎました。利用者の安全性が確保できないものは、安全が確保されるまで利用中止としました。軽微で予算内で対応可能なものは直ちに業者へ修理を依頼しました。 ②建物等大規模修繕は、岐阜市社会福祉事業団事務局を通して、岐阜市へ要望を提出しました。
危機管理 法令遵守	①個人情報の保護 ②非常時の対応策 ③関係法令の遵守	①、②、③マニュアル等に沿って適切に実施しました。また、災害や事故等、適切に岐阜市社会福祉事業団事務局並びに岐阜市へ報告する体制を構築しました。 個人情報が記載された用紙については、使用后すべてシュレッダー処理を行い個人情報の漏洩防止を徹底しました。 また、消防訓練の実施(3月)、非常用備品の確認を行い、期限の確認と不足品の補充も実施しました。

●利用者評価

利用者アンケートの実施状況	<保護者用(一般来館・クラブ参加)アンケート> (1回目) 期間: 令和5年12月12日～令和5年12月22日 回答者数: 81人 (2回目) 期間: 令和6年3月6日～令和6年3月19日 回答者数: 68人 <小・中・高校生用アンケート> (1回目) 期間: 令和5年12月1日～令和5年12月20日 回答者数: 50人(小学: 1年6人、2年14人、3年10人、4年4人、5年1人、6年7人) (中学: 1年6人、2年2人、3年0人)(高校: 1年0人、2年0人、3年0人) (2回目) 期間: 令和6年3月10日～令和6年3月15日 回答者数: 52人(小学: 1年6人、2年16人、3年2人、4年7人、5年5人、6年7人) (中学: 1年3人、2年3人、3年3人)(高校: 1年0人、2年0人、3年0人)
	<保護者用(一般来館・クラブ参加)アンケート> (1回目) 【校区】 鶯(22人)、茜部(15人)、柳津(14人)、三里(13人)、厚見(5人)、市橋(5人)、鏡島(2人)、その他市内(4人)、その他市外(1人) 【年齢】 10代(0%)、20代(16%)、30代(77%)、40代(5%)、50代以上(2%) 【利用頻度】 初めて(1%)、ほぼ毎日(0%)、週2～3回(6%)、週1回(34%)、2週に1回(42%)、月1回(15%)、その他(2%) 【来館相手】 子(98%)、孫(2%)、友人(0%) 【子・孫の年齢】 0歳(19%)、1歳(40%)、2歳(35%)、3歳以上(6%) 【来館方法】 徒歩(7%)、自転車(3%)、自家用車(90%)、公共交通機関(0%) 【何で知った】 ホームページ(53%)、広報紙・チラシ(1%)、学校(1%)、保育所・幼稚園(1%)、知人・友人(27%)、ぎふ子育て応援アプリ(5%)、ソーシャルメディア(2%)、その他(10%)

利用者アンケートの
実施結果

【評価】

(あいさつ) 満足(98%)、ほぼ満足(2%)、普通(0%)、やや不満(0%)、不満(0%)
 (言葉づかい) 満足(99%)、ほぼ満足(1%)、普通(0%)、やや不満(0%)、不満(0%)
 (利用者対応) 満足(95%)、ほぼ満足(4%)、普通(1%)、やや不満(0%)、不満(0%)
 (利用しやすさ) 満足(89%)、ほぼ満足(9%)、普通(2%)、やや不満(0%)、不満(0%)
 (整理整頓) 満足(89%)、ほぼ満足(11%)、普通(0%)、やや不満(0%)、不満(0%)
 (清潔感) 満足(83%)、ほぼ満足(16%)、普通(1%)、やや不満(0%)、不満(0%)
 (換気) 満足(86%)、ほぼ満足(14%)、普通(0%)、やや不満(0%)、不満(0%)

(2回目)

【校区】

鶉(21人)、茜部(19人)、柳津(8人)、三里(7人)、厚見(5人)、市橋(3人)、その他市内(4人)、
 その他市外(1人)

【年齢】

10代(0%)、20代(15%)、30代(73%)、40代(12%)、50代以上(0%)

【利用頻度】

初めて(1%)、ほぼ毎日(0%)、週2~3回(12%)、週1回(36%)、2週に1回(47%)、月1回(4%)

【来館相手】

子(99%)、孫(0%)、友人(1%)、その他(0%)

【子・孫の年齢】

0歳(20%)、1歳(41%)、2歳(34%)、3歳以上(5%)

【来館方法】

徒歩(10%)、自転車(3%)、自家用車(87%)、公共交通機関(0%)

【何で知った】

ホームページ(65%)、広報紙・チラシ(6%)、学校(0%)、保育所・幼稚園(0%)、
 知人・友人(13%)、ぎふし子育て応援アプリ(10%)、ソーシャルメディア(3%)、その他(3%)

【評価】

(あいさつ) 満足(99%)、ほぼ満足(1%)、普通(0%)、やや不満(0%)、不満(0%)
 (言葉づかい) 満足(99%)、ほぼ満足(1%)、普通(0%)、やや不満(0%)、不満(0%)
 (利用者対応) 満足(99%)、ほぼ満足(1%)、普通(0%)、やや不満(0%)、不満(0%)
 (利用しやすさ) 満足(81%)、ほぼ満足(13%)、普通(6%)、やや不満(0%)、不満(0%)
 (整理整頓) 満足(91%)、ほぼ満足(9%)、普通(0%)、やや不満(0%)、不満(0%)
 (清潔感) 満足(90%)、ほぼ満足(7%)、普通(3%)、やや不満(0%)、不満(0%)
 (換気) 満足(87%)、ほぼ満足(9%)、普通(2%)、やや不満(2%)、不満(0%)

<小・中・高校生用アンケート>

(1回目)

【学校名】

鶉小(38人)、境川中(8人)、その他市内(1人)、その他市外(3人)

【学年】

小学: 1年(12%)、2年(28%)、3年(20%)、4年(8%)、5年(2%)、6年(14%)
 中学: 1年(12%)、2年(4%)、3年(0%)
 高校: 1年(0%)、2年(0%)、3年(0%)

【利用頻度】

初めて(0%)、毎日(4%)、週4~5回(10%)、週2~3回(26%)、週1回(34%)、その他(26%)

【来館相手】

ひとり(20%)、友人(66%)、兄弟姉妹(10%)、父母(4%)、祖父母(0%)、親戚(0%)

【来館方法】

徒歩(36%)、自転車(46%)、自家用車(16%)、バス・電車(0%)、その他(2%)

【好きな遊び】

ドッジボール(26%)、卓球(16%)、ぬりえ(10%)、ボードゲーム(9%)、バドミントン(8%)、
 マンカラ(8%)、バンパープール(5%)、その他(18%)

(2回目)

【学校名】

鶉小(41人)、境川中(9人)、その他市内(2人)

【学年】

小学: 1年(11%)、2年(31%)、3年(4%)、4年(13%)、5年(10%)、6年(13%)
 中学: 1年(6%)、2年(6%)、3年(6%)
 高校: 1年(0%)、2年(0%)、3年(0%)

【利用頻度】

初めて(0%)、毎日(6%)、週4~5回(7%)、週2~3回(35%)、週1回(25%)、その他(27%)

【来館相手】

ひとり(23%)、友人(46%)、兄弟姉妹(12%)、父母(13%)、祖父母(4%)、親戚(2%)

【来館方法】

徒歩(12%)、自転車(67%)、自家用車(15%)、バス・電車(6%)

【好きな遊び】

ドッジボール(24%)、卓球(16%)、マンカラ(14%)、ぬりえ(12%)、バドミントン(11%)、
 ボードゲーム(5%)、その他(18%)

利用者からの
要望・苦情と
対応・改善

<保護者>

(1回目)

・駐車場の拡大をしてほしいです。

→駐車場の拡大については、岐阜市子ども支援課とも話をさせてもらっていますが現状は難しいです。ご不便お掛けして申し訳ございません。

・ボールプールがあるとうれしいです。

→以前は設置しておりましたが、長年劣化により撤去いたしました。再設置を検討しましたが、安全面での管理が難しいため断念しました。そのかわりに巨大アスレチック(滑り台)をご用意しております。

・職員と一緒に遊べる空間があるとうれしい。

→随時遊ぶ空間を用意することは難しいですが、自由参加イベントなどでは、職員によるパネルシアターや体操などやっております。

・あたらしいおもちゃの導入があったらうれしい。スクリーンなど・・・

→おもちゃは半月に1度購入しております。ご希望の玩具等ありましたらぜひ職員までお伝えください。

(2回目)

・2Fのマットの老化が少しみられ、半年後ぐらいにはボロボロとはがれそうになるのではないかと思います。

→ご指摘ありがとうございます。確認し対応します。

・清掃時間の表示をしてほしいです。(清掃中に遊ばせることをさけたい)

→現在、掲示をさせてもらっていますが、もう少しわかりやすく詳細にして掲示したいと思います。

・トミカでよく遊ばせてもらっています。トミカの場合が2Fトイレ前広場で寒いです。小さい部品も多いので部屋の外なのではしょうがないと思いますが、暖かいところでできたらいいなと思ってました。

→2Fホールの空間でも遊べる遊びとしてトミカを置いております。ホールなのでエアコンがなく温度調整ができなくご不便お掛けしております。エアコンが設置してあるおもちゃ図書館や図書学習室から空気の流れを作って温度調整をして対応していますが難しい部分があります。今一度検討していきたいと思います。

・駐車場が拡大するとありがたいです。少ないのが難点です。複数回答

→長年ご指摘されている事案でご迷惑をお掛けしております。引き続き岐阜市子ども支援課と改善策を考えてまいります。

<児童>

(1回目)

・ひま・たいくつです

→楽しめるようないろいろと工夫していきます。

(2回目)

・外で遊べるのを増やしてほしい。

→外で遊ぶおもちゃが少ないので検討して取り入れていきますね。

●指定管理者の選定基準に基づく評価

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定 管理者	所管課	評価 委員会
公平性 透明性	住民の平等利用が確保されること	①平等利用を確保するための体制、モニタリングなど	・利用者アンケートの実施 ・運営委員会の開催	S	S	S
		②情報公開、広報の方策	・利用者アンケート結果の公表 ・広範で適切な情報提供・広報活動の実施	S	S	S
		区分評価				S
効果性	事業計画書の内容が、対象施設の効用（設置目的）を最大限発揮するものであること	③既存業務の改善、工夫又は新規事業等の実施	・業務改善や工夫又は新規事業（行事）等の実施	S	S	S
		④利用者ニーズ、苦情などの把握方法、対応方策及びサービスの質を確保するための体制	・利用者アンケートの実施 ・利用者ニーズ・苦情・クレームへの着実な対応・運営への反映	S	S	S
		⑤利用者に対するサービス向上の方策（窓口対応、プロモーション、設備の整備など）	・移動児童館の実施 ・利用者へのサービス向上に繋がる方策の実施	S	S	S
		⑥利用促進、利用者増の方策	・利用促進や利用者増に繋がる方策の実施	SS	S	S
		⑦施設の効用（設置目的）を最大限発揮できるスタッフの配置	・過不足ない適正な人数配置、無理のない職員体制	A	A	A
		区分評価				S
効率性	事業計画書の内容が、管理経費の縮減が図られるものであること	⑧指定管理経費の妥当性	・収支計画の妥当性及び適正な予算執行	A	A	A
		⑨管理経費縮減の具体的方策	・管理経費縮減に繋がる方策の実施（リサイクルやリユース、節水・節電など）	A	A	A
		区分評価				A
安定性 安全性	事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	⑩組織及びスタッフ（採用予定者も含む）の経歴、保有する資格、ノウハウ、専門知識等	・児童厚生員を2人以上、その他の職員（施設が児童センターの場合は体育指導員）を1人以上配置（このうち最低1人は常勤職員とすること）	A	A	A
		⑪スタッフ（採用予定者も含む）の管理、監督体制	・職員の連携体制、職場環境の整備	A	A	A
		⑫スタッフ（採用予定者も含む）の人材育成の方策	・職員の資質向上を図る研修の実施又は研修会への参加	S	S	S
		⑬リスクへの対応方策（利用者の安全確保策、防止策、非常時の対応マニュアルなど）	・危機管理（リスク）や非常時対応のマニュアルの整備 ・リスク防止策の実践	S	S	S
		区分評価				S
貢献性	事業計画書の内容が、岐阜市あるいは施設がある特定の地域（以下「地元」という。）の振興、活性化などに貢献できるものであること	⑭地元の法人その他の団体の育成（一部業務の再委託先）、地元住民の活用（雇用又はボランティア等）	・地元の諸団体との連携、交流 ・地元の法人その他団体の育成又は地元住民・高齢者・障がい者等の活用	A	A	A
		⑮地元での社会活動等への参加	・地元の振興、活性化などに貢献できる社会活動等への参加（地元行事への参加）又は地元の団体・住民との協働事業等の実施	S	S	S
		区分評価				S

●指定管理者の取組みに対する自己評価(良否、課題と解決策など)

今期の取組み
に対する評価

・Instagramによる広報宣伝活動 ②⑥
タブレット端末を活用してInstagramの運用を開始したことにより、多様な手段で幅広い年齢層に、スピーディーに情報を提供できることとなりました。下半期には、動画や音楽などを活用しより親しみやすいInstagramを提供するための研修会を2回開催しました。(下半期投稿回数25回、487件のいいね、フォロワー214人)

・全児童館・児童センターの案内をおたよりに掲載 ②⑥
毎月発行している乳幼児と保護者向けおたよりの裏面に、岐阜市内すべての児童館・児童センターの所在地を地図上で記載しました。これにより、普段利用している児童館以外の児童館を知っていただくきっかけとなりました。

・「ツナグテ」利用者へのPR ②⑥
毎月発行するおたよりを「ツナグテ」のチラシ受けに置いていただき、「ツナグテ」の利用者にもサンフレンドうずら児童センターのPRを行うことができました。

・担当校区へおたより配布 ②
各小学校・各公民館(鶯・茜部・且格)・岐阜市南保健センターにおたよりを配布しています。

・子育て応援アプリ「母子モ」を活用 ②⑥
岐阜市が運用する子育て応援アプリ「母子モ」を活用し、行事等のお知らせを掲載しています。

・ホームページでの情報提供 ②
ホームページの更新、最新情報を提供しました。(下半期更新回数25回)

・「うずらまつり」の実施 ③⑥⑬
コロナ2019で開催を見送りしてきた「うずらまつり」を4年ぶりに開催しました。定員を100名としましたが、2日で定員いっぱいとなるほどでした。開催の3か月前からボランティアを募り準備していき、子どもたちの意見を聞き内容を決め一緒に作り上げていきました。また、母親クラブの方や地域ボランティアにも手伝っていただき、普段利用されているお父様も大道芸人として出演し児童館全体で大いに盛り上がりしました。

・サイエンスショーの開催③
令和4年度から年2回、各児童館で開催しているサイエンスショーの内容について、これまでの開催経験を踏まえ、「子ども参加型で、実験・体験・驚きを感じられるもの」、「華やかさ・わくわく感が感じられるもの」など各施設からの要望に沿った内容のショーを開催し、子どもたちが驚き・どよめき、科学に対する興味・関心を高めることができました。

・ぬりえコンテスト③
子ども運営委員会で子どもから「またやりたい」という声が上がったため開催しました。昨年度開催した「ぬりえコンテスト」ですが、ぬりえが飾ってある場所が2階の図書学習室であったことからあまり認知されてなかったのが反省点でした。今回は、だれもが目に入る場所にぬりえコンテスト作品を飾ったことで幼児から大人まで投票してくださりました。また、普段から声をかけて認知してもらったことからコンテスト参加者は35名となり、約160名の方が投票(1人1票)していただき、児童館全体で盛り上がりしました。

・「もぐもぐタイム」の実施 ③④
利用者より要望がありました昼食について、ルールを制定し開始しました。主に平日の12時～13時は、遊戯室を開放し昼食を食べてよいことにしました。利用数は多くありませんが、「帰っている途中に寝てしまうので昼食が食べることができてありがたい」という声をいただいています。

・誕生日会の内容一部変更 ③⑥
昨年度より始めた「誕生日会」ですが、内容に体操・楽器遊びを取り入れました。身体を動かしたり、楽器を鳴らしたりとバリエーションが多くなり「楽しかった」「いい思い出になりました」という声をいただくことが多くなりました。誕生月の子に限るため昨年度は参加者が1名、2名の月が多かったのに対し、今年度は最低でも4名以上の参加があり着実に認知度が広がっています。内容についても今後も楽しめるような内容に工夫していき参加者が増えるようにしていきたいと思えます。

・申込について、行事参加のデータを基に抽選と先着と分けました。
昨年度より様々な新規事業を実施していきました。約1年が経ち、参加者がすぐに定員を超える行事や緩やかに増えていく行事とありました。そのため一度精査し、下半期から人気の行事を抽選とし緩やかに申込が増えていく行事は先着にして実施しました。先着にすることで利用者も予定が組みやすくなり、職員も業務が軽減できました。

・子ども中心の児童館づくり ⑥
子どもたちに遊び場として選ばれる児童館にするため、子どもたちが主体的になれる環境にしていけることが大切だと考え取り組んでいます。そこでコロナ2019が5類移行になったことでその取り組みを本格的にしていきました。下半期に新規事業等は行っておりませんが、子どもたちが主体的になれる環境づくりを昨年度より築いていきました。主な取り組みとしてまず職員には「関係づくり」として「ななめの関係づくり」(大きな利害関係がなく、かといってお友達のような馴れ合いでもない関係。「逃げ場」や「やすらぎの場」となるような存在)を共通認識として意識づけしました。普段の遊びやルールも子どもたちが主になって決めていきました(遊びのリーダーシップ)。そして今年度から「子ども運営委員会」を立ち上げより子どもたちがより主体的になれる環境を整えました。継続的に取り組んだ結果、今年度11,000人を超える児童館利用数となり、コロナ2019以前の平成27年度から比べ過去最高の利用数となりました。子どもたちに遊び場として選ばれる児童館なりつつあると思っています。今後も引き続き取り組んでいきます。

・「行きやすい」「遊びやすい」「入りやすい」環境づくりとニーズにあった取組の実施 ⑤⑥
家にいるような温かい児童館を目指して雰囲気づくりや環境整備、職員は関わり方を意識しています。来館時、退館時のあいさつや普段からの関わりを大事にしています。また、行事に参加しやすいように様々な形態の行事(登録制幼児クラブ・自由参加クラブ・自由参加イベントなど)を用意し、交流の機会を増やす取組をしています。また児童館職員だけでなく外部の方(鶏主任児童委員・地元幼稚園の先生・母親クラブなど)にもご協力いただき、横のつながりができるようにしています。また、アンケートや関わりによって出た要望等をできるかぎり即時に実施できるようにしています。その結果として今年度の総利用数が31,000人を超え、コロナ2019以前の水準に戻りました。今後も利用数が増えるように引き続き取り組んでいきたいです。

・「うずらまつり」の実施 ③⑥⑬
コロナ2019で開催を見送りしてきた「うずらまつり」を4年ぶりに開催しました。定員を100名とし、3か月前から子どもたちと一体となっておまつりに向けて準備を進めていくことで期待感が生まれるようにしていきました。そうした結果2日で定員いっぱいとなりました。開催に向けて子どもボランティアを募り準備していき、子どもたちの意見を聞き内容を決め一緒に作り上げていきました。また、母親クラブの方や地域ボランティアにも手伝っていただき、また普段利用されているお父様も大道芸人として出演もらい大いに盛り上がりしました。

・「やりたい」を実現・目標をつくれる行事の実施 ⑥
「子ども運営委員会」でやりたいことを話し合い実施していきましたが、普段からも子どもたちの関わりの中で「やりたい」の声を拾い実施しました。そのため行事数が増えましたが他館に比べて多くなりました。企画した子が他の子を誘うことで来たことがなかった子も来館することもあり利用者増につながりました。また、「～大会」を定期開催し「優勝を目指す」という目標設定しやすい行事も取り入れていることで、上手になるために来館する子も多くなりました。

・遊びにタブレット端末を活用 ④⑥

昨年度より導入したタブレット端末ですが、Instagram等の広報活動だけでなく遊びに活用しています。遊びにスマートデバイスを導入することは子どもたちのニーズに合っていると考えています。最近では、ピアノが得意な職員がいることやピアノがしたい子が多くいます。そこにタブレット端末を活用しました。自分の弾きたい曲を検索してわかりやすく解説してくれる動画の視聴と横で職員が教えたことで上達する子が多くなり、またピアノに興味を持つ子が増えました。スマートデバイスを遊びに活用することは現代の子どもにとってはマストでありながら学校と家以外では持つてはいけな家庭が多いというデータ(独自うずら調査)があります。児童館として遊びにスマートデバイスの活用は必要となってくると考え、今後の課題にしていきたいと思っています。

・誕生日会の内容一部変更 ③⑥

昨年度より始めた「誕生日会」ですが、内容に体操・楽器遊びを取り入れました。身体を動かしたり、楽器を鳴らしたりとバリエーションが多くなり「楽しかった」「いい思い出になりました」という声をいただくことが多くなりました。誕生月の子に限るため昨年度は参加者が1名、2名の月が多かったのに対し、今年度は、最低でも4名以上の参加があり着実に認知度が広がっています。内容についても今後も楽しめるような内容に工夫していき参加者が増えるようにしていきたいと思いま

・幼児クラブ申し込み連携 ⑥

登録制幼児クラブで定員を上回る応募があり、残念ながら抽選に漏れてしまった方に対して、他館の幼児クラブに空きがある場合、幼児クラブを紹介できる体制を構築しました。

・こどもうんえい委員会 ③

今年度から取組始めており、子どもたちが言ったことを実現できるようにしています。下半期は、主に次月の行事を決めています。今年度子どもたちの意見で実現している行事は、ポケモンカード大会やめりえコンテスト、バレーボール大会などあります。今後決めるだけでなくその日に向けて一緒に準備できるような企画など考えています。

・うずらまつりボランティアスタッフ ③

うずらまつりに向けて、ボランティアスタッフを募り開催に向けて準備しました。お店の大半は子どもたちが考えたお店でルールづくりなど子どもたちの意見を聞いて一緒に進めてきました。

・遊びのリーダーシップ ③

遊びにおいて子どもたちが中心となって進めてもらうことを基本にしています。だいたい定着してきており、自信を持って進めている子も多くなりました。また、上手にできないときも職員に手伝ってもらいながら進めようとする姿もよく見られるようになりました。

・運営ボランティア ③

遊ぶだけでなく運営に対して手伝ってくれる子が増えています。そういった子を運営ボランティアと言っています。手伝いながら話す機会も多くなり、信頼関係を築くことができています。

・虐待防止研修会の開催 ⑫⑬

虐待防止研修会を開催し、児童館・児童センター職員として子どもの虐待防止に向けた適切な対応ができるよう取り組みました。また、この研修内容をビデオで児童館全職員が見ることで、共通理解、共通認識を取ることができました。

11月：エールぎふ職員・ドリームシアター岐阜共催

2月：岐阜市役所人権啓発センター職員・ドリームシアター岐阜共催

・不審者対策研修会 ⑫⑬

長森児童センターを会場に警察官が不審者役となり、不審者が施設に侵入した際の職員が取るべき行動、利用者の安全確保をいかに行うかなどについて学びました。

11月：岐阜中警察署員・長森児童センター

・ケース検討会毎月1回実施 ④⑬

気になる利用者を職員間でケース検討会を実施し、情報共有しています。どんなに些細なことでも話し合っています。またノートをつけて記録しています。

・合同避難訓練の実施 ⑬

サンフレンドうずら児童センターは、障害者センターとの複合施設です。また放課後児童クラブ(ひまわり)があることから、合同で避難訓練を実施しました。各職員ともに連携をとって行いました。今後も定期的に行っていきたいと思っています。

・電子メールの誤送信対策の徹底 ⑬

メールアドレスを他者に漏洩することがないよう電子メールを使用して一斉配信をする際は、自動的にBCCに変換できるソフトを導入し、対策しています。

・子ども110番の家の登録 ⑬⑮

子どもが助けを求めた際、その子どもを保護し、必要により警察、学校、家庭などへ連絡するなど、地域ぐるみで子どもたちの安全を守るため、子ども110番の家に登録しています。

・鶴主任児童員との共催「カンガルー」を実施 ⑮

今年度より年間行事として年4回を計画しました。未就園児(0～3歳)までの子とその保護者を対象に行事を開催し、「保健師による食のおはなし」「お楽しみ会」をしました。主任児童員と保護者の交流をして、お互いを知ってもらえる企画となっています。

・放課後児童クラブ「ひまわり」との交流 ⑮

児童センターの一部部屋を放課後児童クラブ(ひまわり)が使用しており、図書学習室や園庭を利用し、児童センターの利用者と交流できるようにしています。

・0歳児クラブに地元・近隣にいる関係機関による講座 ⑭

0歳児対象に地元にある歯科医の先生による「赤ちゃんとお歯」についての講座や鶴地区を中心に活動をしている先生による「リトミック」講座を開催しました。また地元幼稚園の先生にも来てもらい交流しました。

・聖徳学園大学「レクレーション研究会」との交流 ⑭

教育大学である聖徳学園の大学生と交流をしました。レクレーション研究会でありレクレーションを通して子どもたちと交流しました。

前回までの意見を踏まえた取組み状況	○子どもたちが自ら児童センター内のルールの制定や行事の決定に携わる「こどもうんえい委員会」の取組みを新たに開始し、子どもたちの意見を尊重した運営を実施している。 →下半期も継続して取り組んでいます。まだまだ少数ですが定着しつつある事業で今後も継続して行っていききたいと思います。 ○上半期で移動児童館を15回実施したり、近隣の学校の施設見学や職場体験を積極的に受け入れるなど、児童センターを知るきっかけを作り、利用者増に努めている。 →下半期も15回実施しました。声があつたらなるべく参加して、児童センターを紹介していただくようお願いしていきました。 ○地元の病院や併設の障害者センターと協働で講座や交流会を実施するなど、地元と連携して事業を実施することができている。 →下半期は、大型行事「うずらまつり」があり、各関係機関にも声をかけて手伝っていただきました。 ○所管課の意見のとおり、適切に管理運営されている。「こどもうんえい委員会」の取組みを行っていることが評価できる。子供の権利条約における「参加する権利」の尊重にもなってくるので、今後も大切にしていきたい。 →「子ども中心」の児童館づくりを目指して、「こどもうんえい委員会」だけではなく、普段から子どもたちの発信したことを拾い、実現できるように職員共通認識で関わっています。
今後の取組み	□子どもたちがより発信しやすい場であり主体的に行動ができるように「こどもうんえい委員会」を中心に児童館運営をしていきます。 □地域福祉を目指すために地域連携をもっと推進していきます。鞆主任児童委員や保健師、地元の幼稚園や小学校と連携し共催行事等の実施などに努めます。 □今の世代の家庭に合った子育てに関する情報を職員が勉強しておき、0歳から就園に至るまで長期的に利用してもらえるような支援を目指します。 □学校や家庭に居場所がない子どもたちを支援するため、来館した1人ひとりの児童たちに目を配り、話しかけ、必要に応じて学校など他の機関との連携強化を図ります。また、事業団児童館長を中心に虐待防止委員会を組織し、研修・事例研究などを進めていきます。

●所管課の意見

○ボランティアを募り「うずらまつり」を実施したり、「こどもうんえい委員会」では子どもたちが行事を決めるなど、業務改善や新規事業に積極的に取り組んでいる。

○移動児童館を下半期で15回実施し、そのうち未設置地区を14回実施するなど、児童館未設置地区での児童館の活動普及に努めている。

○地元団体が実施する親子ふれあい教室などの支援協力を下半期で15回実施するなど、社会活動に積極的に取り組んでいる。

●指定管理者評価委員会の意見

所管課の意見のとおり、適切に管理運営されている。

児童館は子どもの居場所としての役割があることから、アンケート等子どもの意見を大切にし、今後も運営に努めて欲しい。

「こどもうんえい委員会」や「うずらまつり」等こどもを主体とした取組みが評価できる。